



ソフトウェア導入ガイド

2025.11 Ver.1.1.0





Logging Foot Installation Guide

改訂履歴

バージョン	日付	内容
1.1.0.1	2025/11	初版



内容

ソフトウェア導入ガイド	1
1. はじめに	4
1.1. 本ソフトウェアについて	4
1.2. 使用上のご注意・免責事項	4
1.3. 著作権及び使用許諾条項	5
1.4. 動作環境	5
1.5. 動作性能	5
2. Logging Foot 構成	6
2.1. インストール構成	6
2.2. ソフトウェア構成概要	7
2.3. 構成パターン	8
2.3.1. ローカル PC 上での構成パターン	8
2.3.2. リモート PC での構成パターン	9
2.3.3. 複数のサーバープロセス起動について	9
3. ロギングの手順概要	10
3.1. ロギングの開始	10
3.1.1. Viewer アプリケーションを起動してロギングを開始する	10
3.1.2. お客様のプログラムから起動してロギングを開始する	10
3.1.3. Windows セキュリティ警告の表示について	11
3.1.4. ウィルスソフトの誤検知について	11
3.2. ログの出力	12
3.3. ロギングの終了	12
4. エディション種類	13
4.1. エディション説明	14
4.1.1. フリー（無償版）	14
4.1.2. ビジネス（有償版）	14
4.1.3. トライアル60	14
4.2. フリーエディションへの切り替え	15
4.3. ライセンスを登録する	16
4.3.1. ライセンスファイルの登録	16



1. はじめに

この度は、Logging Foot（読み方：ロギングフット、以下 本ソフトウェアと記述）をダウンロードしていただき誠にありがとうございます。本ソフトウェアのご使用前に本書をお読みになっていただき、ご理解を深めてからご活用いただけると幸いです。

1.1. 本ソフトウェアについて

本書で述べる本ソフトウェアとは、後述する FTSDK 及び Viewer アプリケーション等の関連する一連のソフトウェア群を示し、インストール先フォルダに展開される各フォルダに収納されています。

これらのフォルダに収納されている各オブジェクトは、[1.3 著作権及び使用許諾条項](#) に示す使用条件下において、再頒布可能です。

本ソフトウェアが提供する API 群（以下、FTSDK と記述）をお客様のプログラムに実装していただくことにより、本ソフトウェアが提供する Viewer アプリケーション上でのリアルタイムなログ表示、検索、抽出、保存といった各種機能を使用してプログラムの動作を解析・検証したり、エンドユーザーの操作ログを残したりする用途にご使用いただけます。

お客様のプログラム開発におけるデバッグ作業や稼働時に出力されるログの解析など、開発や運用にかかる負担の軽減に貢献します。

1.2. 使用上のご注意・免責事項

- ・ 個人情報や機密情報などの秘匿性の高い情報は本ソフトウェアで出力しないようにしてください。
- ・ 医療、金融系システムといった高い信頼性が求められるシステム下では使用しないでください。
- ・ 万が一、本ソフトウェアを使用したことにより生じたいかなる障害・損害につきましても、作者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 本ソフトウェアを導入するにあたり、本ソフトウェアが提供している無償版又は試用版を使用してお試しいただき、お客様の責任において導入してください。
- ・ 本ソフトウェアにバグ及び不具合が見つかった場合、作者は改善する努力はしますが義務を負わないものとします。



1.3. 著作権及び使用許諾条項

本ソフトウェアを使用するにあたり、以下の条項に同意したものとみなされます。

- ・ 本書及び本ソフトウェアの著作権は作者 Quantityworks Software に帰属します。本書及び本ソフトウェアを作者に無断で転載、複製、改変、配布、販売などを行うことを禁止します。
- ・ お客様は、本ソフトウェアが提供する機能を正しく動作させる目的においてのみ本ソフトウェアを使用することができます。
- ・ 本ソフトウェアをお客様のプログラムに組み込み、かつ本ソフトウェアの機能が正常に動作する状態において、お客様のプログラムと共に複製及び再配布をすることができます。
- ・ お客様は、本ソフトウェアのご使用版が無償版・有償版を問わず、組み込み先となるお客様のプログラムが商用利用・非商用利用を問わず前述の使用条件下において本ソフトウェアを使用することができます。

1.4. 動作環境

OS: Windows10(64 ビット)、Windows11(64ビット)

CPU: Intel 第4世代以降又は互換 CPU (推奨)

RAM: 4GB 以上 (推奨)

ストレージ: 32MB 以上の空き容量 ※ ただし保存されるログ容量は除く

1.5. 動作性能

- ・ 出力ログの最小間隔 : 2~3ms以下 ※ Intel 8 世代CPUでの検証結果
 - ・ Viewer アプリケーション
 - ログの最大表示行数 : 10,000 行 ※ 超えた分は先頭行から消去されます
 - ログ1件あたりの最大出力バイト数 : 4KB ※ 超えた分は出力されません。
 - ログ出力対応言語 : 英語、日本語 ※ 特殊文字・記号は非対応(文字化けします)
 - 最小表示間隔 : 16ms ※ これよりも短い間隔で出力があった場合、内部でバッファリングされます。(出力ログが消失することはありません。)
- このため、最小表示間隔よりも短い間隔で出力が続くとメモリ使用量が増大します。



2. Logging Foot 構成

本章では、インストール構成及び本ソフトウェア構成について説明します。

2.1. インストール構成

インストールに成功するとデフォルトでは c:\Program Files\Logging Foot フォルダに以下の構成でフォルダが展開されます。これらの収録物は [1.3 著作権及び使用許諾条項](#) に示す使用条件下において再頒布可能です。

フォルダ名	説明
doc¥jp	各種の日本語ドキュメントが収録されています。 <ul style="list-style-type: none">・FTSDK-API 仕様書 (LoggingFoot_API-JP.pdf)・ソフトウェア導入ガイド (LoggingFoot_Installation-JP.pdf) ※本書・Viewer アプリケーション操作ガイド (LoggingFoot_Man-JP.pdf)・セットアップガイド (LoggingFoot_Setup-JP.pdf)
doc¥en	各種の英語ドキュメントが収録されています。 <ul style="list-style-type: none">・FTSDK-API 仕様書 (LoggingFoot_API-EN.pdf)・ソフトウェア導入ガイド (LoggingFoot_Installation-EN.pdf)・Viewer アプリケーション操作ガイド (LoggingFoot_Man-EN.pdf)・セットアップガイド (LoggingFoot_Setup-EN.pdf)
ftsdk	お客様プログラムに組み込みするための API が実装されたクライアントモジュール及び各プログラミング言語に対応したラッパープログラムが収録されています。
ftviewer	Viewer アプリケーション及び関連モジュールが収録されています。
sample	FTSDK-API の使用方法を示したサンプルプログラムが収録されています。
ftsetup	本ソフトウェアが組み込まれたお客様のプログラムをエンドユーザー先で実行する際に本ソフトウェアの振る舞いを事前に設定しておくためのセットアッププログラム及びセットアップ解除プログラムが収録されています。 主にお客様プログラムのインストーラー等に組み込みこんで使用します。
ftsetup¥ SetupSample	セットアッププログラムの使い方を示すサンプルのインストーラープロジェクトが収録されています。



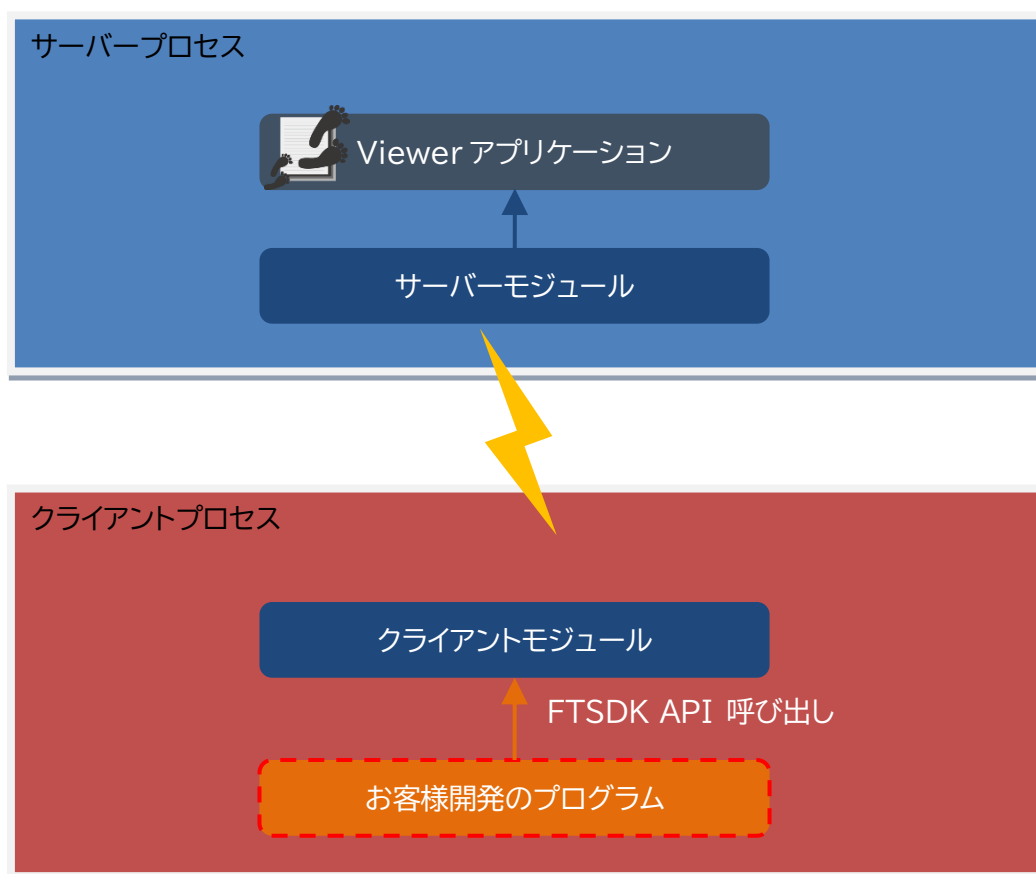
2.2. ソフトウェア構成概要

本ソフトウェアは、おおまかにサーバープロセスとクライアントプロセスから構成されます。

お客様の開発プログラムは、クライアントプロセスとして構成されます。

お客様のプログラムから FTSDK API を使用してログ出力すると、クライアントモジュールはサーバーモジュールに対しメッセージをポストします。Viewer アプリケーションは、サーバーモジュールからの通知を受けるとお客様のプログラムで出力したログを表示します。

クライアント・サーバーモジュール間の通信は完全に非同期であり、別々のプロセス空間で実行されます。クライアントモジュールは、サーバーモジュールにメッセージをポストすると直ちに制御を返すため、ログを出力することでおお客様のプログラムに負荷や影響を与えません。





2.3. 構成パターン

本ソフトウェアは、1つのサーバプロセスに対し、1つのクライアントプロセス(1対1)又は複数のクライアントプロセス(1対 N)を構成することができます。

また、サーバプロセス及びクライアントプロセスは必ずしも同一の PC 上にある必要はなく、リモート PC 上でも構成可能です。接続可能な最大プロセス数は無料版 64、有償版は 1024 です。

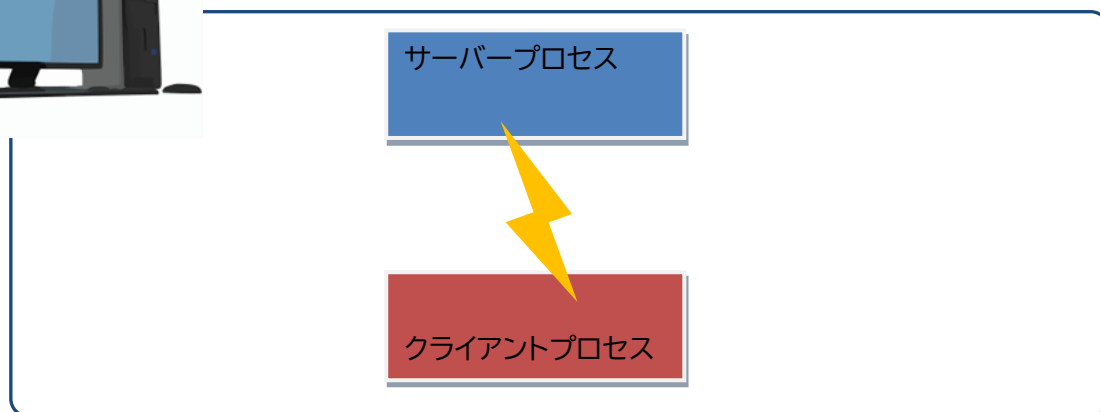
1つの PC 上では、複数のサーバプロセスを起動することができますが、クライアントと通信確立ができるのは、最初に起動したサーバプロセスのみとなります。

2.3.1. ローカル PC 上での構成パターン

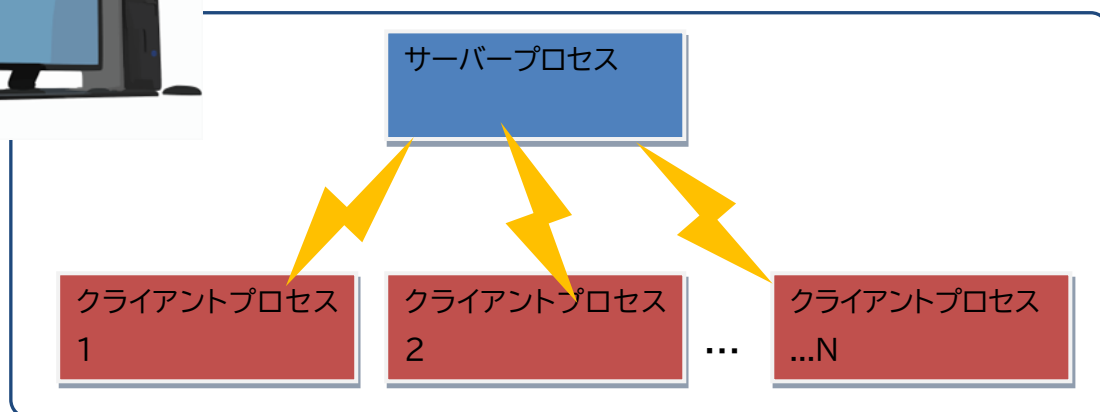
1対 N の構成の場合、サーバプロセスでは1つの Viewer アプリケーションが全てのクライアントプロセスの出力ログに対応します。



ローカル PC 1対1



ローカル PC 1対 N





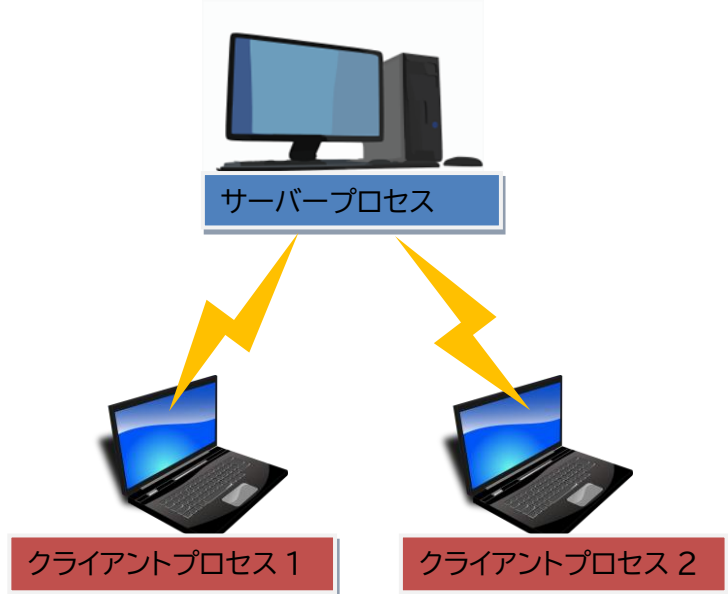
2.3.2. リモート PC での構成パターン

リモート PC 構成では、同一セグメントのネットワーク上である必要があります。

リモート PC 構成 1対1

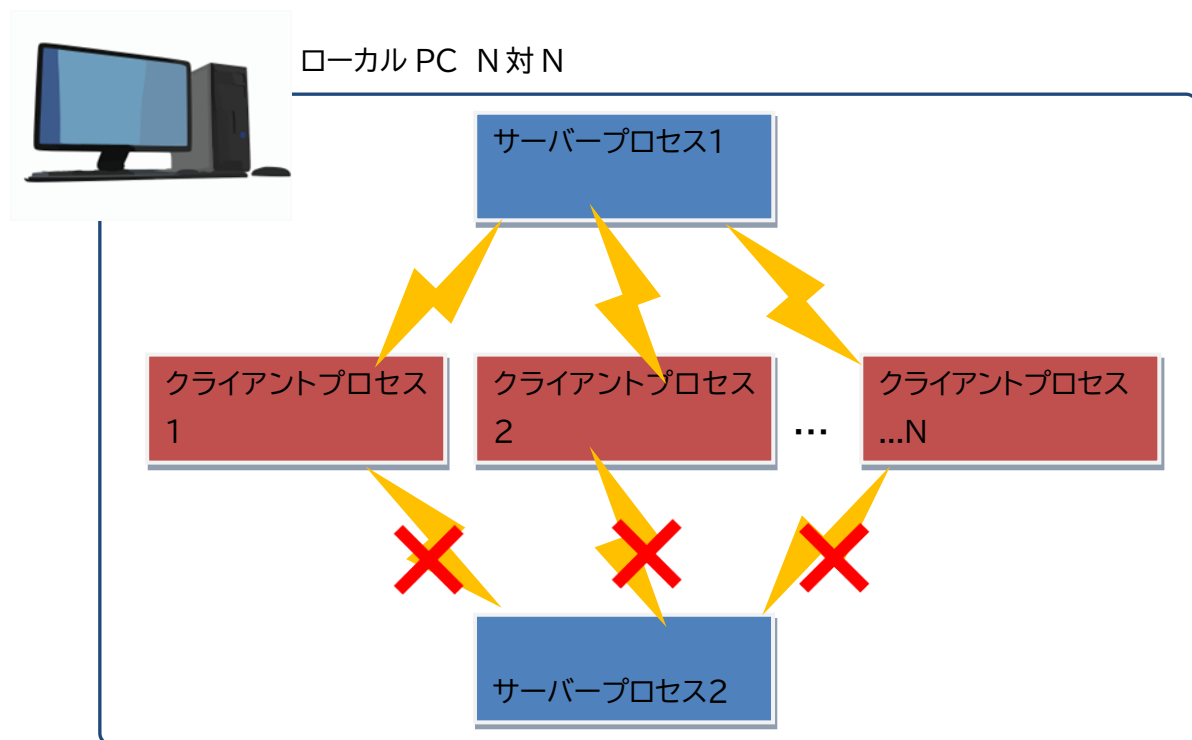


リモート PC 構成 1対N



2.3.3. 複数のサーバープロセス起動について

同一 PC 内において、通信確立できるのは最初に起動したサーバープロセスとなります。





3. ロギングの手順概要

FTSDK を使用してお客様のプログラムから出力されたログは、Viewer アプリケーションによってリアルタイム表示、保存が行われます。本書ではこのようなログの出力・表示・保存までの一連の処理を「ロギング」と呼ぶことにします。

各 API の詳細はここでは述べません。別紙「FTSDK API 仕様書」をご参照ください。

3.1. ロギングの開始

ロギングを開始するには以下に示す2通りの方法があります。

3.1.1. Viewer アプリケーションを起動してロギングを開始する

Viewer アプリケーション(ft_viewer.exe) を直接起動する方法です。

お客様のプログラムには、③ に示す FTSDK API を実装し以下の順序で起動します。

- ① Viewer アプリケーションを起動する
- ② お客様のプログラムを起動する
- ③ FTCORE_StartProcess() を呼び出す

3.1.2. お客様のプログラムから起動してロギングを開始する

FTSDK API を組込んだお客様のプログラムから起動する方法です。(クライアントトリガー起動)

お客様のプログラムには、以下のいずれかの FTSDK API を実装します。

- FTCORE_StartTriggerWithParam()
- FTCORE_StartTriggerWithSetup()

上記 API は呼び出すと自動で Viewer アプリケーションを起動してからクライアントプロセスを開始します。これら API から起動した場合、直接 Viewer アプリケーションを操作して終了させることはできません。後述する FTCORE_ExitTrigger() を呼び出すことでのみ終了可能です。有償版の場合、Viewer アプリケーションのオプション設定をしておくことにより動作を設定できます。無償版は、既定値で動作します。

上記(1)(2)いずれの場合も、サーバープロセスとの通信確立に成功すると Viewer アプリケーションのメッセージ列に Logging Server accepted request. が表示されます。

これ以降、FTSDK の各 API を使用可能になります。



3.1.3. Windows セキュリティ警告の表示について

Viewer アプリケーションを初めて起動する時、その PC のファイアウォール設定やセキュリティポリシーの設定によっては、下図の Windows セキュリティの重要な警告ウィンドウが表示されることがあります。これは、Viewer アプリケーションが特定ポートにアクセスするためです。

この場合、[アクセスを許可する] ボタンを押下することにより通常、以降は表示されなくなります。この表示は、本ソフトウェアを組み込みしたお客様のプログラムがエンドユーザー先で実行された際に問題になる場合があります。

有償エディションに含まれるセットアップツールを使用してセットアップすることにより、この表示を回避することができます。詳細は別紙「セットアップガイド」をご参照下さい。



3.1.4. ウィルスソフトの誤検知について

お使いのウィルスソフトによっては、前述の理由により Viewer アプリケーションが誤検知されることがあります。この場合、お使いのウィルスソフトの手順に従い、例外ケースを作成するなど設定を変更してください。



3.2. ログの出力

プログラム内のログ出力させたい任意の場所でログメッセージを送信する FTSDK API の `FTCORE_SendMessage()` を呼び出します。本関数の引数には、ログ内容の本文の他、ログのカテゴリや重要度といった後で解析に役立つ情報を設定することができます。

ログのカテゴリについてはお客様独自に定義することも可能です。

詳細は別紙「Viewer アプリケーション操作ガイド」をご参照ください。

3.3. ロギングの終了

ロギング開始時に呼び出した API に対応する API を呼び出す必要があります。

(1) `FTCORE_StartProcess()` でロギング開始した場合

お客様のプログラムには、クライアントプロセスを終了する FTSDK API の `FTCORE_ExitProcess()` を実装し以下の順序で終了します。

- ④ `FTCORE_ExitProcess()` を呼び出します。
- ⑤ Viewer アプリケーションを終了させます。
- ⑥ お客様のプログラムを終了します。

※ ②③は順不同

(2) `FTCORE_StartTriggerWithParam()` 又は

(3) `FTCORE_StartTriggerWidthSetup()` 関数でロギング開始した場合

`FTCORE_ExitTrigger()` を呼び出すと自動で Viewer アプリケーションを終了してからクライアントプロセスを終了します。



4.エディション種類

エディションの一覧を下記に示します。有償版は近いうちにリリースが予定されています。

エディション	フリー 無償	プロフェッショナル 有償	トライアル 30 試用版
主な使用用途			
開発中デバッグ・検証	✓	✓	✓
個人開発アプリ	✓	✓	✓
社内使用アプリ	✓	✓	✓
商用製品アプリ	--	✓	✓
委託開発アプリ	--	✓	✓
有償機能			
セットアップツール付属	--	✓	✓
有償機能を組込んだアプリの 商用稼働	--	✓	--
プロセス間通信			
接続可能最大プロセス数	64	1024	1024
トークンによる相互認証	✓	✓	✓
TLS-PSK による通信暗号化	--	✓	✓
クレジット表記等			
起動時 Logging Foot ロゴ表示	有り	無し	無し
ドキュメント等への クレジット表記義務	有り	無し	無し
使用制限等			
試用期限	無し	無し	30 日



4.1. エディション説明

4.1.1. フリー（無償版）

フリーエディションは、組み込みするお客様のプログラムが商用・非商用利用目的に関わらず、無償で本ソフトウェアを組み込み、それらと共に再頒布することができます。

主な使用用途としては、開発中のデバッグ・検証、個人開発又は社内使用のアプリとしていますが、商用アプリや委託開発アプリへの組み込みを制限していません。

本エディションは、本アプリケーション起動時に「Logging Foot」のロゴが表示されます。

また、お客様のプログラムのドキュメント又は取扱説明書等に「Logging Foot」を使用していることのクレジット表記をお願いしております。

4.1.2. プロフェッショナル（有償版）

プロフェッショナルエディションは、1.3 著作権及び使用許諾条項 に示す内容の範囲内において制限なくお客様の商業活動にご使用いただけます。

本エディションは、本アプリケーション起動時の「Logging Foot」起動ロゴは表示されません。

また、クレジット表記の義務もありません。

4.1.3. トライアル 30

プロフェッショナルエディション(有償版)を 30日間、無料でお試しいただけます。本エディションは、使い始めてから一定の日数が経過するごとに本アプリケーション起動時に残り試用日数を通知するメッセージが表示されます。本エディションを組み込んだプログラムを商用稼働させることはできません。本エディションをお試し後、引き続き本アプリケーションを使用される場合は、下記3通りから選択できます。

- (1) フリーエディションに切り替える（4.2 フリーエディションへの切り替え）。
- (2) 有償エディションのライセンスを購入し登録する（4.3 ライセンスを登録する）。
- (3) 有償エディションを購入する。（トライアルエディションをアンインストールし、購入した有償エディションをインストールする）



4.2. フリーエディションへの切り替え

メインメニュー [ヘルプ(H)>バージョン情報]を選択するとバージョン情報ダイアログが開かれます。



下図、バージョン情報ダイアログで [実行] ボタンを押下します。





4.3. ライセンスを登録する

本ソフトウェアは、購入方法によってはライセンスファイルの登録が必要な場合があります。その場合、初期状態ではフリーエディション又はトライアルエディションとして起動しますので購入先より入手したライセンスファイル又はパッケージに同梱されているライセンスファイルを以降の手順で登録することにより有償機能が有効になります。

メインメニュー [ヘルプ(H)>バージョン情報]を選択するとバージョン情報ダイアログが開かれます。



4.3.1. ライセンスファイルの登録

下図バージョン情報ウィンドウの [登録] ボタンを押下するとファイル選択ダイアログが開かれますので購入先から入手したライセンスファイル (.lic) を選択します。



正しく認証されると下図ダイアログが表示されます。

